



# 自助と共助で 防災力を高める

問合せ 防災・庁舎建設課  
(☎372-3311)・内線3344

## 自助・共助の意識を育てる

自助・共助という言葉を知っていますか。防災における自助は、自分の命は自分で守る、自分のことは自分で助けるということ。共助は、自治会・町内会などの地域コミュニティ単位で助け合い体制を築き、実際に助け合うことです。

西部コミュニケーション・スクールでは、自助と共助の考え方を大切に、地域ぐるみで防災訓練に取り組んでいます。小・中学生が地域防災の担い手となり、地域のためにできることを自ら考えられるよう、平成27年から始まった取り組みです。今年、7月22日に西部小学校6年と西部中学校3年が参加し、消防団の協力の下、傷病者搬送リレーとバケツリレーを行いました。

## 身の回りの物を使い 臨機応変に対応する

傷病者搬送リレーでは、担架が近くになく、身の回りの物を使って人が人を運ばなければならぬ状況を想定。毛布の端を巻く、衣服の袖に1本ずつ棒を通すといった方法で簡易担架を作るほか、椅子に座った人を4人がかりで支えることで、けが



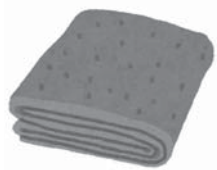
人を運びました。

バケツリレーでは、災害時にライフレインが途絶えた状況を想定。小・中学生が持参した「水を運べる物」を使い、大きな水槽からポリタンクに水を運びました。

## 地域で助け合う

昨年、北海道では台風の上陸により記録的な大雨が発生。河川の氾濫や通行止めの影響で、孤立した地域もありました。そんな時に頼りになるのは、地域住民同士の支え合いではないでしょうか。備蓄品や避難経路の確認といった自助はもちろん、地域で助け合う共助にも、目を向けてみませんか。

## けが人がいる、でも担架はない！そんな時どうする？



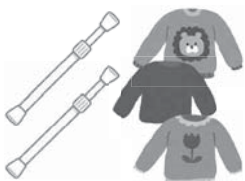
毛布を使って…



毛布の端を丸めて筒状にします



筒状に丸めた部分を持って運べます



服と棒を使って…



服の袖に1本ずつ棒を通します



棒を持って通常の担架のように運べます

### コミュニティ・スクールとは

保護者や地域のニーズを反映するために、地域住民が学校運営に参加できる仕組みを持つ学校のことです。学校・家庭・地域が一体となって、子どもの成長を支えることができます。

市内では、西部小・中学校がコミュニティ・スクールを導入しています。

### 地域の頼れる存在に

西部コミュニティ・スクール防災訓練は、地域のリーダーを育てる取り組みだと思っています。

防災訓練後、生徒から「災害が起きた時には、自分のできることを見つけて取り組みたい」と頼もしい感想が聞かれ、防災への意識が高まっているように感じています。

子どもたちには、災害が起きた時に先頭に立って地域を引っ張ることができる存在になってほしいですね。



西部中学校教頭  
丸山真嗣典さん

### 避難所運営ゲーム北海道版 D○はぐを体験しませんか

D○はぐは、静岡県が開発した避難所運営ゲーム<sup>HUG</sup> (Hinanzyo Unei Game) に、雪や寒さの問題を加えた北海道版のHUGです。気温の低下・ボランティアの申し入れといった予想外の出来事や、さまざまな事情を持つ避難者への対応について、グループで話し合います。

市では、自治会や町内会などに対して、D○はぐを使った出前講座を実施しています。開催を希望する場合は、防災・庁舎建設課へ問い合わせてください。



西部中学校3年がD○はぐを体験